

ビッド・ドシエについて（概要）



OSAKA-KANSAI/JAPAN
EXPO2025



2017年9月

経済産業省 博覧会推進室

ビッド・ドシエとは

◆ビッド・ドシエとは

- 立候補国がB I E事務局に提出する正式な立候補申請文書。
- B I E事務局は、開催候補地への調査団訪問を経て、評価レポートを作成。

◆主な目的

- B I Eから、開催計画の実現可能性について、技術的審査を受けるための書類であり、調査ミッションの際の基礎資料となる。 ※B I E加盟各国政府にも送付される。

◆今後の主なスケジュール

2017年9月28日	ビッド・ドシエ提出期限
11月15日	BIE総会（第2回プレゼン）
2018年1～3月頃	BIE調査団来日・審査（1週間程度） ※立候補国を順次訪問。訪問順は未定。
6月	BIE総会（第3回プレゼン）
11月	BIE総会（最終プレゼン後、投票により開催地決定）

◆記載内容（B I Eより指定された14項目）

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 名称、テーマ、および開催スケジュール | 8. 立地条件 |
| 2. 開催意義および期待される効果 | 9. 会場構想 |
| 3. 国内の支持 | 10. パビリオン等の配分 |
| 4. テーマとその目的 | 11. 想定される総入場者数とその客層 |
| 5. テーマの展開 | 12. 来場者と参加者のための宿泊計画 |
| 6. 組織および優遇措置等 | 13. 資金計画 |
| 7. コミュニケーション戦略 | 14. 参加費用の見込み |

1. テーマ及びコンセプト

テーマ及びコンセプト

テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン “Designing Future Society for Our Lives”

サブテーマ：①多様で心身ともに健康な生き方 ②持続可能な社会・経済システム

- ・「人」(human lives) にフォーカス。
- ・個々人がポテンシャルを発揮できる生き方と、それを支える社会の在り方を議論。
- ・国連が掲げる2030年のSDGs (持続可能な開発目標) の達成に貢献。
- ・日本は官民挙げて「Society5.0」を推進。IoT、AI等の先端技術をフル活用して課題解決。

コンセプト：未来社会の実験場 “People’s Living Lab”

- ・展示を見るだけでなく、世界80億人がアイデアを交換し、未来社会を「共創」(co-create)。
- ・開催前から、世界中の課題やソリューションを共有できるオンラインプラットフォームを立ち上げ。

開催地：大阪、関西の魅力

- ・ライフサイエンス分野をはじめとした最先端技術と、それを支える様々な企業 (中小企業含む) の集積。
- ・歴史、伝統、豊かな文化。旺盛なチャレンジ精神。

2. 会場計画の概要

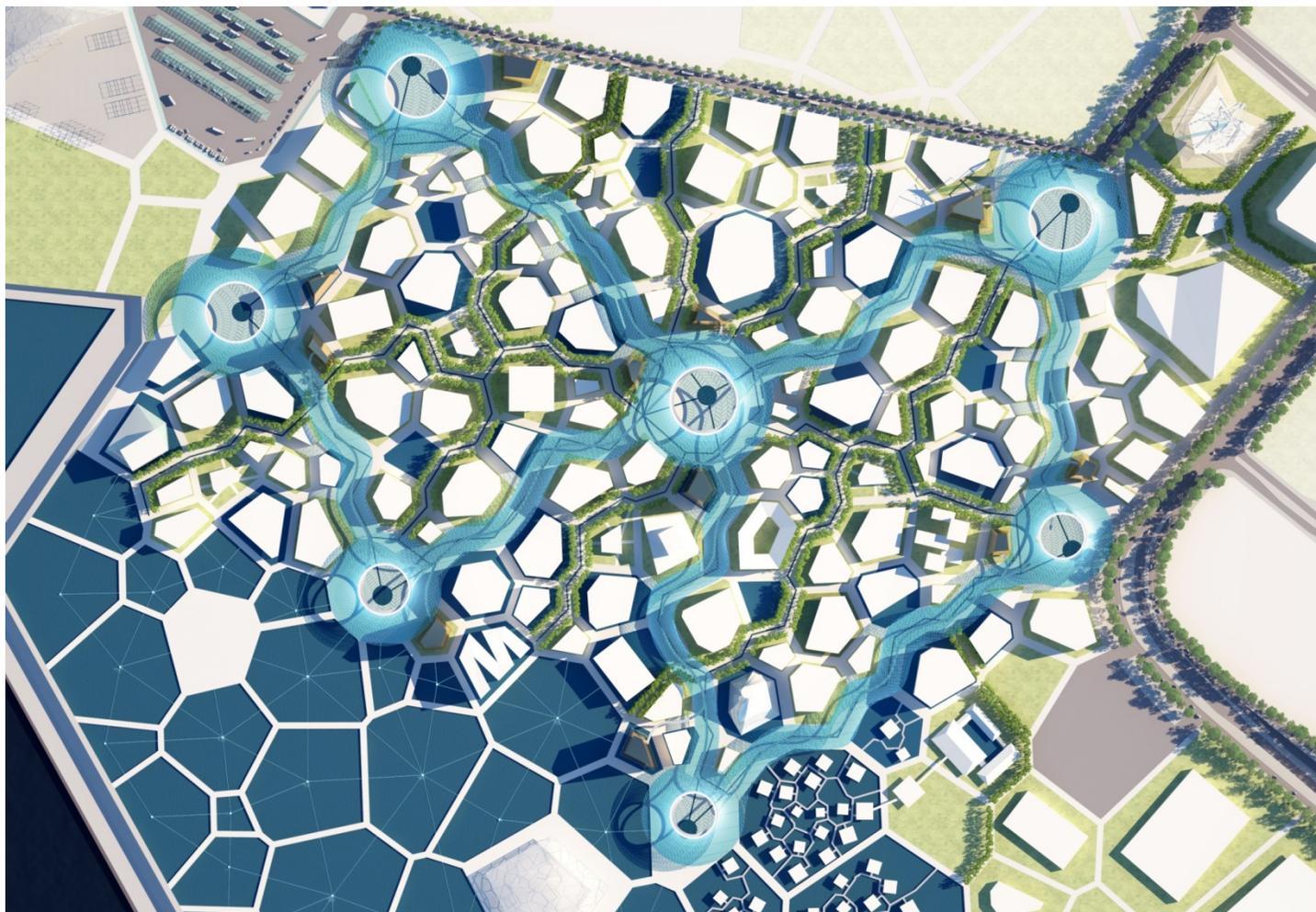
鳥瞰図

- 会場は、大阪のウォーターフロントに位置する人工島・夢洲（ゆめしま）。
- 会場面積は、155ヘクタール。（※会場中心部にパビリオン等、南側水面に水上施設等、西側緑地にアウトドア施設等をそれぞれ整備。）



非中心、分散型のパビリオン配置

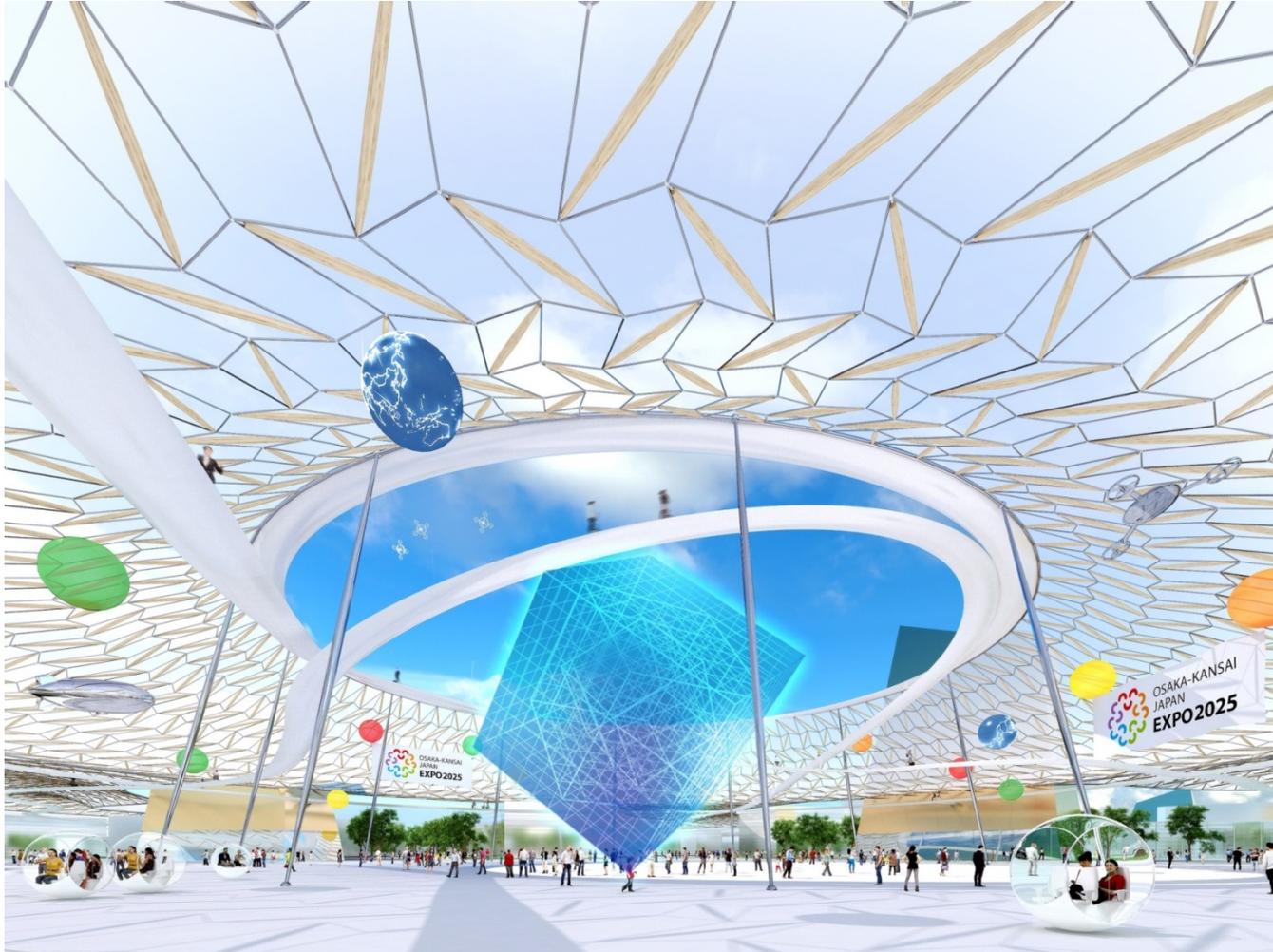
- ボロノイパターン（※）を用いた、あえて中心をつくらない分散型の会場デザイン。個と個の関係、多様性の中から生まれる調和と共創によって形成される未来社会を表現。
- 2つのエントランスと5つの大広場をつなぐようにメイン通りを設置し、その上には大屋根を設置。



（※）ボロノイパターン:自然界に存在する基本的で反復的な幾何学パターン。有機的なつながりと成長を象徴。

大広場：「空」（くう）

- 会場内の5カ所に「空」（くう）と呼ばれる大広場を設置。
- A R（拡張現実）・M R（複合現実）技術を活用した展示やイベントなどを行い、来場者の交流の場とする。



来場者にやさしい会場

- メイン通りの間をつなぐ通りには水路や緑の並木を整備。
- 暑さ対策も行い、来場者が快適に過ごせる空間を提供。



鳥瞰図（南西側）

- 南西側を望む夕景の会場鳥瞰図。
- 淡路島、明石海峡大橋を背景に、美しい景観が広がる。

